

高齢化社会の大きな課題—「通院難民」 病院機能を生かした訪問診療で在宅の不安解消



社会医療法人ピエタ会
石狩病院
内科医長
荒木孝太

石狩市の高齢化率は35.0%ですが、40年には40.5%になると予測されています。高齢化で労働人口が減少し公共サービスが縮小してしまうと、高齢者の通院が難しくなり、「通院難民」が確実に増えます。また、在宅療養していても、「病院に通うのが辛くなってきた」「病院での待ち時間が体力的にきつい」などさまざまな理由で通院を諦めてしまうこともあると思います。

当院では24年4月から訪問診療を開始しています。入院機能を活用し、訪問診療中に急変した場合は、速やかに入院治療につなげられます。複数の慢性疾患を持つ高齢者は、合併症を起こすことも少なくあり

ませんが、内科、消化器内科、循環器内科、漢方内科、泌尿器科、外科、整形外科の診療科を持ち、専門医が多く在籍しているので、院内連携による迅速対応が可能です。

また、私は脳神経外科を専門としており、脳疾患の症状などを早期に発見することができます。訪問診療については、前職の神奈川県では300人以上の患者さんを主治医として診てきました。さらに、クラウドファンディングを活用して訪問専用車両を2台体制に充実させ、より多くの訪問診療が可能となります。

訪問診療を通じて、石狩病院周辺の地域・ご家族の一員として参加させていただき、嬉しいことや楽しいこと、時には辛いこと、悲しいことを共有できるような関係性を築いていけたらと考えています。